

新庁舎建設特別委員会の概要（第12回）

- 1 日 時 令和2年4月9日（木） 10時40分～12時15分
- 2 場 所 第1議会委員会室
- 3 出 席 全委員
- 4 内 容 1 新庁舎の整備について
2 その他

配布資料

- ① 新庁舎整備事業候補地との比較（課題の整理）令和2年3月1日作成
- ② 新庁舎整備事業候補地との比較 令和2年2月10日作成

- 前回の委員会で1回あたり1テーマにて議論していくことを確認したため、今回は「前平候補地」についてこれまでの資料をもとに委員間で協議を行った。

【委員会で出た主な意見】

- 都市公園内に庁舎を建設する場合は、代替公園用地を隣接地に確保する必要があることを把握しておくこと。
- 前平候補地の選定基準について
→（執行部）将来的に用地が、県から市に帰属される見込みがあるため。
- 土砂について
→（執行部）造成高9.6mを想定した場合、残土が出ないように土砂を全部盛土に使用すると、擁壁の高さが約10m必要となり、構造上の問題やコストリスクが出てくる。また、動線となる「西町作り洞線」からの勾配を8%～10%と想定しているが、歩くにはきつい傾斜であると思われる。
- 他の進入路について
→（執行部）防災上の面も含めて検討しているが、例えば北のスカイロードから道を引っ張ってくると、かなりの費用がかかると思われる。また、都市公園機能を損なうような道路整備は避ける必要がある。
- 擁壁を作る際の耐震について
→（執行部）開発基準の中で確認をしているが、擁壁の高さは一般的には5mであり、それを超えると危険であるため、10mというのは得策ではない。
- 土地を2段に分けて造成してはどうか
→想定はできるが、市民の利便性が高いことを考慮すると平地がいいと考えられる。例えば、障がい者の方などが利用される場合は、段差が無い方が利便性

は高い。

- 公園を潰してまで新庁舎を建設してほしくないという市民の意見も聞いている。
- 国からの助成金については
 - （執行部）前平候補地については現状無いと思われる。
- 豚コレラの関係で豚が埋葬されているのではないかと
 - （執行部）造成地については消毒も済んでおり、開発等行うことは可能である。
- 議員で候補地の現場確認する必要があるのでは
 - （委員長）前回は現地確認の意見は出ており、今後の議論を深めていくためにも現地確認は必要である。現地確認が可能か執行部から県に確認してもらいたい。
 - （執行部）県に連絡を取り確認する。
- 新庁舎建設だけでなく、それに絡めた「まちづくり」を考慮して意見を深めていくべき。市民に理解してもらえるような会議を行っていく。
- 未来のまちづくり委員会での答申を考慮して話し合いをしていくべきなのは、答申をもっと尊重すべき。
 - （委員長）答申の内容も踏まえ、4つの候補地について比較していく必要がある。まずは今回「前平候補地」について議論しあった。今後、他の候補地についても議論を行うことで理解を深めていただき、よりよい委員会にしていきたい。
- 今後の財政の見通しについて
 - 議論を進めていくなかで今後の財政の見通しが必要。
 - （執行部）今後税収が増加するという事は考えにくい中で、他の公共施設の増改築の必要性もあり、新庁舎に実際どのくらい費用をかけることができるか見通しをつける必要がある。また、活用できる補助金があれば積極的に取りにいきたいと考えている。
- 商業ビルの維持管理費の30億円（30年間）について、10年間、20年間と刻んで考えることはできないのか
 - （執行部）耐用年数30年に対して費用の計算している。例えば10年で刻んだとしても、取り壊しになるのか、さらに維持していくのかという問題は出てくるため、維持費用が単純に3分の1になるという単純な話ではない。あくまで耐用年数30年に対して費用を想定しているもの。
- 新庁舎建設と商業ビルの維持は切り離して考えるべきでは
 - （執行部）切り離して考えることは不可能だと考えている。商業ビルは市所有であり、保育園やコミュニティセンターと同様、将来に向かって責任を持った対応しなければならないため、財政的には切り離せない。
- 分庁舎の解体について
 - （執行部）駅北側と前平公園に新庁舎を建設する場合には、分庁舎の経過年数や市民の利便性を考慮して、分庁舎を解体し、新庁舎に機能を移すことが適

していると考えている。

【まとめ】

○ 今後の進め方について

まずは各候補地にテーマを絞って意見を深めていくことを確認して閉会した。